

伊吹山花だより

第67号(令和5年7月)

上野区:ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

ユウスゲの花を吟じて 文月の夕暮れ

さあ、伊吹山の花たちが躍動する夏の到来です。

レモンイエローに3合目を染めるユウスゲの群落はもちろん、形も色も香りもバラエティー豊かな花々が、競演します。

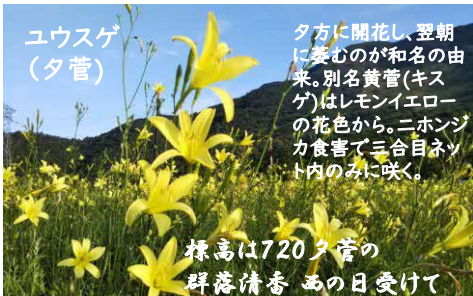
ただし、獣害防止ネットの中だけです…。



ルリトラノオ
(瑠璃虎の尾)

宝石の瑠璃虎の尾が夏風に
後ふように小刻みに揺れ

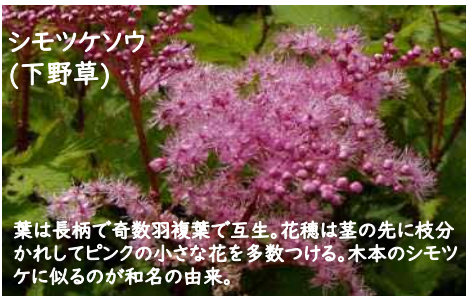
瑠璃は紫帯びた青で現在の宝石ラピスラズリ。和名は瑠璃色の虎の尾の意。伊吹山のみ自生する特産種。クガイソウと似るがこちらは葉は対生。



ユウスゲ
(夕管)

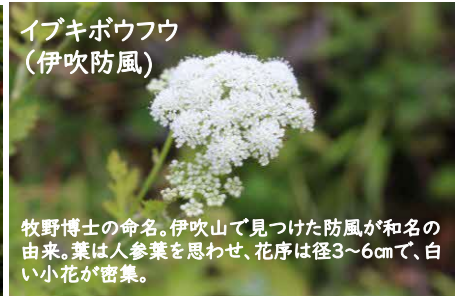
夕方に関花し、翌朝に萎むのが和名の由来。別名黄菅(キスゲ)はレモンイエローの花色から。ニホンジカ被害で三合目ネット内のみ咲く。

標高は720夕管の
群落清香 西の日受けて



シモツケソウ
(下野草)

葉は長柄で奇数羽複葉で互生。花穂は茎の先に枝分かれしてピンクの小さな花を多数つける。木本のシモツケに似るのが和名の由来。



イブキボウフウ
(伊吹防風)

牧野博士の命名。伊吹山で見つけた防風が和名の由来。葉は人參葉を思わせ、花序は径3~6cmで、白い小花が密集。



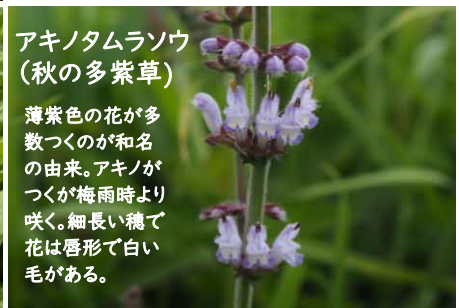
イブキジャコウソウ
(伊吹麝香草)

茎は地表を這いよく分枝し、その先端から淡紅紫色の花序を出す。和名は伊吹山に多く自生し、花や葉を撫でると麝香の香がするので。



オカトラノオ
(丘虎の尾)

花穂が曲がり先で反転気味になる姿が和名に。萼片5裂、雄しべ5、雌しべ1で下から順に咲き上がる。
女月の曇り空下
堂々と
白さ一際オカトラノオは



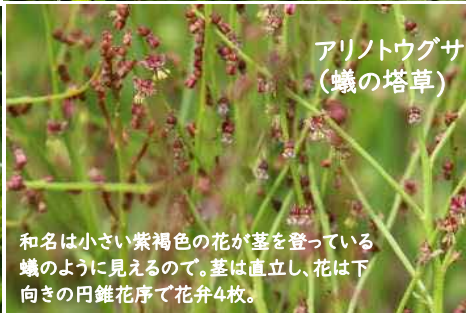
アキノタムラソウ
(秋の多紫草)

薄紫色の花が多数つのが和名の由来。アキノがつくが梅雨時より咲く。細長い穂で花は唇形で白い毛がある。



ハクサンフウロ
(白山風露)

初めて確認されたのが白山と茎の細い毛についた露が和名の由来。花は径3cm、淡紅色~紅紫色。葉は手の平状。6月~10月まで、順々に長く咲く。



アリノトウグサ
(蟻の塔草)

和名は小さい紫褐色の花が茎を登っている蟻のように見えるので。茎は直立し、花は下向きの円錐花序で花弁4枚。



オオダイコンソウ
(大大根草)

和名の由来は、根生葉が大根の葉に似るので。黄色の5弁花で、花序は球形で鉤状の毛が目立つ。



クルマバナ
(車花)

小さな淡紅色の唇形花が輪状に集まって咲く姿が和名に。花穂は茎先から上部の葉の付け根に数段離れてつける。



イタチサガ
(鼬豆舌)

花の色をイタチの毛色に、豆果をササゲに例えたのが和名に。葉軸の先が巻き上がり、花は1.5cm程で初め黄色く徐々に茶色に変わる。



オオバギボウシ
(大葉擬宝珠)

葉が他の仲間より大きく、蕾の形が橋の欄干の擬宝珠に似るのが和名に。花冠は紫帯びた白色で漏斗状。



コバギボウシ
(小葉擬宝珠)

和名は葉が小さいから。葉は、葉脈が表面で凹み基部はやや急に狭くなって柄に続く。花は一日花。花色は淡紫色で内側に濃紫色の脈筋が入る。



コマツナギ
(駒紫)

花は紅紫色で、マメ科特有の蝶形花。花形は萩に似るが上向きに咲く。落葉低木。和名は根や茎が馬が繋げるほど丈夫で強いことから。



オトギリソウ
(弟切草)

この草を鷹の傷薬として秘伝にしていた鷹匠が秘密を漏らした弟を切ったという伝説が和名に。葉や花弁、萼片の黒色油点が特徴。

5月と6月の3合目植物観察会—春から初夏へ季節とともに移り変わる花々—

3合目で5月21日に植物観察会、同月28日と6月18日に花が好きな子どもたちに花のガイドをしました。

5月に見られた花は、群生するアヤメ、フタリシズカ、クサタチバナ、サワフタギ、エビネ、ゴマギ、ヤマボウシ、エゾノタチツボスミレ、シラユキスミレ、ツボスミレ、イブキノエンドウ、ウマノアシガタ、オドリコソウ、ホタルカズラ、アマドコロ、ハクサンハタザオ、タチイヌノフグリ、ヒメハギ、ミツバツチグリ、チゴユリ、コウゾリナ、ヤマハタザオ、コナスビ、キバナレンリソウ、カキドオシ、ヒロハハナヤスリ(シダ類)、ヒカゲノカズラ(同)、ウリノキ、キンラン、タツナミソウ、イブキスミレ(閉鎖花)、ナルコユリ(薔)などで、子どもたちが獣害防止ネットの破れを見つけて、結束バンドで穴をふさいでくれました。

6月に見られた花は、あちこちに咲くササユリ、クサフジ、キバナレンリソウ、ヤマホタルブクロ、タツナミソウ、オカタツナミソウ、ヤマタツナミソウ、ユウスゲ、ノアザミ、コウゾリナ、ニガナ、イブキノエンドウ、イブキトラノオ、ハクサンフウロ、クララ、タカトウダイ(イブキタイゲキ)、ヤマムグラ、ナワシロイチゴ、カラマツソウ、クルマバナ、スズサイコ、ミヤコグサなどでした。子どもたちは自作の観察ノートやカメラ、虫眼鏡、定規まで持参して熱心に観察し、また開きっぱなしのネット出入口ドアを発見。ドアは必ず閉めてくださいね。



アヤメ(菖蒲)



フタリシズカ(二人静)



ヒメハギ(姫萩)



クサタチバナ(草橋)



ヤマタツナミソウ(山立浪草)



イブキトラノオ(伊吹虎の尾)



スズサイコ(鈴柴胡)



ササユリ(笹百合)

伊吹山に登って、伊吹山をもっと知って、もっと好きになろう！ 学校登山ガイド

5月、6月に学校登山をガイドしました。地元の小中学生、県外から100人を超える団体も。山麓からの登山とドライブウェイ利用の2パターンでした。

山麓からは、グループ行動でみんな声かけあって登頂。足場の悪い箇所はガイドや保護者、先生がサポート。3合目では、ニホンジカの獣害による植生の衰退と獣害防止ネットによる保全の取組や裸地化した斜面が集中豪雨によって崩壊している現状を説明しました。

山頂では、自然豊かな伊吹山のたくさんの固有種や薬草などの植物、食物連鎖の頂点に立つイヌワシや山頂を舞うヒメボタル、360度の展望、多くの学校の校歌で歌われ親しまれる山、日本百名山などの伊吹山の魅力を説明するとともに、日本一の富士山登山の練習に最適と言われる伊吹山の標高差1,200mを登りきった素晴らしさを伝え、みんな達成感は大きく、5年生は来年も登りたいとの感想も。ドライブウェイ利用も道中の花や伊吹山の魅力や課題を説明し、今度は山麓から登りたいという感想もありました。登山道は以前より荒れていますが、グループ行動を守り、追い抜かない、ゆっくり歩く、両手にはポール以外持たない、正しい登山道を歩く、落石をさせないなどをしっかりと守り、岩場の箇所では大人がサポートすれば比較的安全に登ることができ、子どもたちにとって思い出に残る伊吹山登山となるでしょう。



これから登る斜面を見て頑張ろう！(3合目)



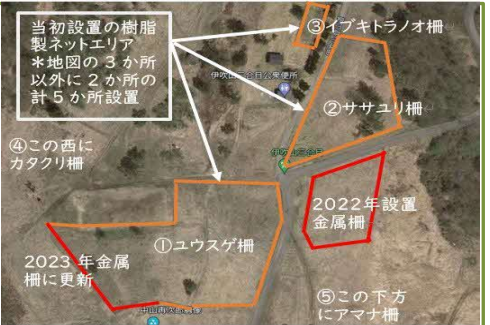
下界が箱庭のよう、絶景だなあ！(6合目)

(株)資生堂様のご支援で樹脂製ネットを金属柵に更新

3合目の植生を守る樹脂製ネットは5か所、延長約900m(右図)ありますが、設置後概ね10年を経過して劣化が進んでいます。このため金属柵への更新が喫緊の課題です。

こんな中、昨年9月に3合目に新たな金属柵180m(右図の右下の四角の赤線)設置をご支援頂いた(株)資生堂様が、今年も5月24日(水)に資材費のご負担とともに、当日多くの社員等の皆様が設置作業に従事頂き、夏にはユウスゲが群生する最も広い樹脂製ネット(ユウスゲ柵)のうち、100m分を金属柵に更新することができました(右図の左下の赤線)。この金属柵設置により、ニホンジカの侵入を長期にわたり防ぎ、補修・修繕等のメンテナンス作業の負担も軽減できました。

(株)資生堂様のご支援に心から感謝申し上げます。



みんなで引っ張り樹脂ネットの撤去



ヘルメット被り支柱の打ち込み



金属ネットの固定を何か所も。



見事に堅固な金属柵の完成。

今年もユウスゲまつり開催決定(7月23日~25日の3日間に拡大)

7月23日(日)

アルプホルン演奏、萩原浩司さん講演

3合目植物観察会 定員75名

7月24日(月)および25日(火)

3合目観察会 定員各25名

○申込み先:米原市地域振興課

0749-53-5171 詳しくは市HP、チラシで。

定員一杯の場合はご容赦ください。



3合目ユウスゲ群落



コオニユリ



ツリガネニンジン

【お願い】獣害防止ネットの補修やネット内の植生の維持管理作業を行っています。伊吹山の植物に親しんで頂くため、皆様のお入りは自由ですが出入口ドアは必ず閉めてください。シカの侵入で甚大な被害が発生します。



ネット内のスイバ抜き取り

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎 TEL 090-3286-8191

副会長 堀江 寛 TEL 0749-58-1323